

総務企画委員会 活動報告書

令和4(2022)年10月31日

宇都宮商工会議所
会頭 藤井 昌一様

総務企画委員会
委員長 若月 章 男

当委員会では、令和元(2019)年度から委員会が所管する重要事項の調査・研究を進めてまいりました。

このほど、次に掲げる事項についての調査・研究が終了しましたので、その活動経過と結果についてご報告いたします。

総務企画委員会 委員名簿

令和4(2022)年10月31日現在

委員長	若月章男 (前任者)中津正修	鈴運メンテック(株) 代表取締役会長 トヨタウッドユーホーム(株) 取締役会長
副委員長	新井孝則 (前任者)若月章男	栃木トヨタ自動車(株) 代表取締役社長 鈴運メンテック(株) 代表取締役会長
委員	辻由兵衛	(株)辻由 取締役会長
委員	若井勲	(株)かましん 相談役
委員	角一幸	(株)TKC 相談役
委員	谷田部峻	谷田部石材販売(株) 取締役会長
委員	加納孝文	(株)ミットヨ 取締役常務執行役員 宇都宮統括部長
委員	村上龍也	(株)村上 代表取締役
委員	石川均	トヨタウッドユーホーム(株) 代表取締役社長
委員	富川善守 (前任者)下山孝治 (前任者)猪俣佳史	(株)栃木銀行 常務取締役 (株)栃木銀行 常務取締役 (株)栃木銀行 専務取締役

以上10名

目 次

I	委員会の開催経過	1
	1 委員会の開催	
II	調査事項についての主な意見等	3
	1 令和元(2019)年度	
	(1) 第1回	
	(2) 第2回	
	2 令和2(2020)年度	
	(1) 第1回	
	(2) 第2回	
	3 令和3(2021)年度	
	(1) 第1回	
	(2) 第2回	
	4 令和4(2022)年度	
	(1) 第1回	
	(2) 第2回	
III	次期総務企画委員会における取り組みについて	10

I 委員会の開催経過

1 委員会の開催

(1) 令和元(2019)年度

ア 第1回

- (ア) 日時 令和2(2020)年1月31日(金)
- (イ) 会場 宇都宮商工会議所 常議員会室
- (ウ) 出席者 委員7名、事務局9名
- (エ) 内容
 - (a) 総務企画委員会の調査・研究事項について
 - (b) 第4期中期事業計画の検証結果について
 - (c) 第5期中期事業計画(素案)について

(2) 令和2(2020)年度

ア 第1回

- (ア) 日時 令和2(2020)年10月2日(金)
- (イ) 会場 宇都宮商工会議所 常議員会室
- (ウ) 出席者 委員9名、事務局9名
- (エ) 内容
 - (a) 提言・要望事項に伴うアンケート結果について
 - (b) 宇都宮市への「令和3年度予算化・措置要望」について
 - (c) その他

イ 第2回

- (ア) 日時 令和3(2021)年3月19日(金)
- (イ) 会場 宇都宮商工会議所 常議員会室
- (ウ) 出席者 委員8名、事務局9名
- (エ) 内容
 - (a) 第5期中期事業計画の重点事業検証結果について
 - (b) 新型コロナウイルス感染症緊急対策事業等について
 - (c) その他

(3) 令和3(2021)年度

ア 第1回

- (ア) 日時 令和3(2021)年8月30日(月)
- (イ) 会場 宇都宮商工会議所 大会議室
- (ウ) 出席者 委員5名、事務局9名
- (エ) 内容
 - (a) 提言・要望事項に伴うアンケート調査報告書について
 - (b) 宇都宮市への「令和4年度予算化・措置要望」について
 - (c) その他

イ 第2回

- (ア) 日 時 令和4(2022)年2月25日(金) ※書面会議による開催
- (イ) 回答者 委員8名
- (ウ) 内 容
 - (a) 第5期中期事業計画の検証

(4) 令和4(2022)年度

ア 第1回

- (ア) 日 時 令和4(2022)年8月4日(木)
- (イ) 会 場 宇都宮商工会議所 常議員会室
- (ウ) 出席者 委員7名、事務局10名
- (エ) 内 容
 - (a) 令和4年度総務企画委員会スケジュールについて
 - (b) 提言・要望事項に伴うアンケート調査報告書について
 - (c) 宇都宮市への「令和5年度予算化・措置要望」について
 - (d) その他

イ 第2回

- (ア) 日 時 令和4(2022)年10月24日(月)
- (イ) 会 場 宇都宮商工会議所 常議員会室
- (ウ) 出席者 委員5名、事務局10名
- (エ) 内 容
 - (a) 宇都宮市への「令和5年度予算化・措置要望」について
 - (b) 第6期中期事業計画(素案)について
 - (c) 宇都宮商工会議所創立130周年記念事業(素案)について
 - (d) 総務企画委員会活動報告書について
 - (e) その他

II 調査事項についての主な意見等

1 令和元(2019)年度

(1) 第1回

ア 調査・研究事項について

事務局から今後の調査研究事項及びスケジュールについて説明を行い、以下の項目について調査研究を行うことが了承された。

- (ア) 政策提言・要望に関する事
- (イ) 第5期中期事業計画の策定と年度毎のローリングに関する事
- (ウ) 宇都宮市への予算化・措置要望に関する事
- (エ) 商工会議所の組織、事業運営、財政の安定化に関する事

イ 第4期中期事業計画の検証結果について

資料に基づき事務局から、令和元年12月現在の検証結果について報告がなされ、検討を行った。委員からの主な意見は次のとおり。

- (ア) 目標値、評価、課題が記載されているが、「評価」というよりは「事実」を記載しているように思える。検証が難しい目標値を設定しているのではないか。
 - (イ) 目標値について、検証可能なデータの検討をお願いしたい。
 - (ウ) 商工会議所は、将来的には収益事業や会員を増やしていかなければ厳しい状況になるだろう。
 - (エ) 中心市街地の再開発事業の側面から言えば、行政や組合の話し合いは遅れていると感じる。中心市街地の活性化ができなければ通行量の減少にもつながるので、これらも併せて調査して、ぜひ行政へ積極的な働きかけをして欲しい。
- ➡ 委員からの意見を踏まえ、今後の事業への反映を検討することとした。

ウ 第5期中期事業計画（素案）の検証結果について

事務局から第5期中期事業計画概要（素案）を基に説明を行った。委員からの主な意見は次のとおり。

- (ア) 人材確保の項目について、従業員教育で困っている企業が多いので、多少、今までとは違った雇用が増えることについて、どう支援するかを検討してはどうか。
 - (イ) 今後3年間の計画の中で、オリンピックや国体についてはあるが、LRTや大谷ICについては何も記載がない。市で大きく変わる部分だが商工会議所で取り組む事業は無いのか。
 - (ウ) 観光振興やブランド力強化の中に含まれるのかもしれないが、LRT開通や、宇都宮駅のインバウンド対策等のプランを商工会議所として事業計画に挙げてよいのではないか。
 - (エ) 社会の動きが速くなり、基準が上がっていることで、目標値の基準を低く設定してしまうと活性化につながらない。より効果的に事業を行うにはマッチングをしっかりと、従来より目標の基準を上げないといけないのではないか。
- ➡ 委員からの意見を検討し、第5期中期事業計画に反映することとした。

2 令和2(2020)年度

(1) 第1回

ア 提言・要望事項に伴うアンケート結果について

事務局から提言・要望事項に伴うアンケート結果について説明を行った。
委員からの主な意見は以下のとおり。

- (ア) コロナ禍から早く脱却したいが、元に戻れるかどうかわからない。ただ、待っているだけでは悶々としてしまうので、地域として経済界として、どのように経済を回復させるのかを議論する場が欲しい。
- (イ) IT化という動きはコロナ禍に関わらず必然的であり、限られた人数でパフォーマンスを上げるとなると、業務効率の見直しやITの導入が必要となる。
- (ウ) リモートワークは自社では難しいと考えていたが、実際に取り組んでみると、WEB商談など意外にもスムーズに移行が出来たことから、いかにデジタル化が遅れていたのかを実感した。
- (エ) テレワークを続けていくと一人作業が増えるため、従業員のメンタルケアが課題となる。これは企業だけでなく、宇都宮市民全般にも共通することから、メンタルケアにも着目して良いのではないか。
- (オ) 東京の企業ではテレワークを導入する企業が増え、オフィスに出勤する必要がなく、自宅で仕事を行う人が地方に移住を考えるケースが増えている。これは東京から近い宇都宮にとっては定住促進の好機ではないか。
- (カ) このコロナ禍で宇都宮市に提言要望するのであれば、キーワードは「電子化」ではないか。
- (キ) 宇都宮は観光振興として大谷を推進しているにも関わらず、街全体が汚く、大谷資料館に頼りきっており、観光客の受け入れ態勢が整っていないのが実情である。
大谷地区にぜひ来てくださると県内外に発信していながら、道路や歩道、バス停などの整備が行き届いていない。大谷スマートインターチェンジの設置については、反対の意見も出ているようだが、スピード感をもって着手して欲しい。

イ 宇都宮市への「令和3年度予算化及び措置要望」について

- (ア) 市や県など行政の諸手続きを電子化による簡素化ができないかという点を要望に組み込んでよいのではないか。
- (イ) ICTの利活用の促進について中小企業において、IT化の対象となる業務領域は業種によって異なる。業種問わず共通しているのは、正確な会計システムや給与計算、受発注・販売管理システムなどである。中小企業と広域的にターゲットを設定するのではなく、業種・業態など対象範囲を絞り込んで支援を行う方が有効ではないか。
➡ 委員からの意見を踏まえ、令和3年度予算化・措置要望に反映できる内容について修正を行うこととした。

ウ その他

「宇都宮商工会議所における新型コロナウイルス感染症の影響に関する事業者支援」及び「新型コロナウイルス感染症緊急対策事業（後期）」について事務局から説明が行われ、特に意見等はなかった。

(2) 第2回

ア 第5期中期事業計画の重点事業検証結果について

事務局から第5期中期事業計画の検証結果について説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

- (ア) 宇都宮商工会議所全体の事業計画において、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、どれだけ事業規模が縮小したかのデータは出せないか。事業単体での検証では、委員から意見を伺うことは難しく、議論の対象となるのか疑問である。
 - (イ) 検証については、事業個別ではなく、全体としてどのような数値に影響があったのかを把握する方が現実的ではないか。
 - (ウ) 単体の事業検証では、事業の間口が広すぎて全体像が掴めない。事業ごとの確認は大変ではないか。
 - (エ) 令和3年4月から消費税の総額表示義務化、令和5年10月にはインボイス制度の導入が開始されるが、当商工会議所においては、市内中小企業がしっかりと対応できるように周知、指導を行ってほしい。
 - (オ) 宇都宮商工会議所ホームページへのアクセス件数も落ち着くことが想定されるとの記載があるが、アクセス件数をあまり伸ばすことは良くないという意味合いで記載しているのか。ビジネス上ではアクセス件数を増やすべく、ウェブページのコンテンツを充実させる等の努力をした方が良いのではないか。
 - (カ) 中期事業計画については、テーマが非常に多く、宇都宮商工会議所の職員数では厳しいのではないか。テーマを選択して集中することが必要だと思う。
 - (キ) 事業が膨大だと感じる。中小零細企業にとって今すぐに必要かの有無を分けて、事業の優先順位をつけると良いのではないか。
- ▶ 委員からの意見を踏まえ、今後の事業への反映を検討することとした。

イ 新型コロナウイルス感染症緊急対策事業等について

事務局から新型コロナウイルス感染症緊急対策事業等について説明を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

- (ア) 今後、オンライン会議など ICT 化が急速に進む時代の流れになっていく場合、今までのように戻らないと思うが、自分たちの会社はどうしていきべきなのか、地域はどうなっていくのか、宇都宮商工会議所としてどのような議論をしていくのかといったものを示してもらえると、現場として有難い。
 - (イ) 県の対応策や現在の状況を踏まえて企業としてどのような対応をしていけばよいか示せると良いのではないか。
 - (ウ) 日本経団連はSDGs（持続可能な社会）について力を入れている。
 - (エ) デジタルトランスフォーメーションについて、業種、事業規模ごとのデジタル化にどこから取り組めば良いかなど支援があるとありがたい。
 - (オ) 2050年のカーボンニュートラル（脱炭素化）については、宇都宮商工会議所としても中長期的な目線で何から取り組んでいくべきか、考えるべきではないか。
- ▶ 委員からの意見を踏まえ、事業への反映を検討の上、実施することとした。

3 令和3(2021)年度

(1) 第1回

ア 提言・要望事項に伴うアンケート調査報告書について

- (ア) カーボンニュートラルやSDGsの推進は、中小企業単独の実施が難しい。行政や商工会議所で、連携してぜひ積極的に取り組んでいただきたい。
- (イ) 中心市街地活性化の考え方について、従来の価値観に基づいて議論していいのか疑問を持っている。時代は変わっており、中心市街地活性化の概念を捉えなおす必要があると考えている。
その概念を議論する場がないことが問題だと思われる。行政や商工会議所には、そのような機会づくりに取り組んでほしい。
- (ウ) 大谷地区の振興について、市が関わらないとまとまらない背景がある。大谷地区全体を生かすために、市が積極的に関わってほしい。
- (エ) 宇都宮市は、歴史的に二荒山神社を中心としてまちがつくられており、文化の中心である。二荒山神社を歴史や文化の発信地として、まちづくりができないかと思う。
- (オ) 観光振興について、宇都宮市だけでなく他市町や他県とのパッケージで考える必要があると思われる。
- (カ) まちづくりについて、「検証」が必要だと考える。LRTがJR宇都宮駅東口に建設されているが、そこで得られた問題や課題について西口側に延伸した際に生かせるのかどうか検証する必要がある。昔の前提が今は通用しない時代であり、「検証」が大切である。
- (キ) コロナワクチンも、3回以上の接種が検討されている。ワクチン接種を進めるために中期的な課題として捉えて、対応が進むようにしてほしい。
- (ク) コロナの感染拡大は悪いことだけでなく、様々な社会問題の解決にもつながっていった。それは、変わらないものとして社会に定着するものである。コロナ禍が明けた後、その変わらないものにも乗り遅れないよう、商工会議所や行政も備えたほうがいいと思われる。

イ 宇都宮市への「令和4年度予算化及び措置要望」について

- (ア) 創業支援の対象を若年者だけでなく、高齢者層にも目を向けたほうが良いと思う。国も高齢者の起業に関心が高く、令和3年度厚生労働白書にも記載がある。
 - (イ) 創業支援の中に、M&Aの定着や廃業支援、事業譲渡希望者の支援等を盛り込んだらどうか。M&Aも以前と比べて受け入れやすくなっている。
 - (ウ) 昨今のカーボンニュートラルの動きに危機感を覚えている。福島県と東京都で水素ステーションの導入が進んでおり、中間にある栃木県は遅れている。
 - (エ) 宇都宮市の歴史について、例えば二荒山神社には源頼朝や徳川家康も戦勝祈願に訪れたと言われる由緒正しい神社である。しかし、小学生の社会でそのような内容を学ぶ機会は無くもったいないと思う。その他にも日本の主な歴史に関わっている場所や人物がいる。そのような歴史を小学校で教えてもらえるよう要望できないだろうか。
- ▶ 委員からの意見を踏まえ、令和4年度予算化・措置要望に反映できる内容について修正を行うこととした。

(2) 第2回

ア 第5期中期事業計画の検証

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、書面会議により実施した。委員からの主な意見は次のとおり。

- (ア) 4月に個人情報保護法の改正等もあるなど、単なる情報活用だけではなくセキュリティについての理解もより一層深めることが必要と考える。
 - (イ) 市内中小零細企業は、代表者の高齢化や人材不足等の要因により、ICT化が進んでいないのが現状である。当商工会議所から仕事の合理化、効率化について積極的に気づきを与える必要があると思われる。
 - (ウ) コロナ禍がどの程度影響しているか分からないが、創業支援や経営相談支援等、中小企業の活力に直接つながる指標について実績との乖離が見られるため、より相談しやすい環境づくりが必要と考える。
 - (エ) 新型コロナによる景気へのダメージは甚大なものになっているが、政府等の資金支援施策により多くの中小企業が事業継続できている。しかし、それらの資金の返済期限が順次到来するなかで、改めて中小企業に対する資金支援施策の検討が急がれると思う。
 - (オ) 電子帳簿保存法の改正及び消費税法改正に伴うインボイスの導入とその電子的保存が令和5年10月から完全施行される。実務的な視点からの支援策の検討を求められている。また、同時に遅れていると言われている中小企業のDX化を進める機会でもある。
昨年岸田首相が発表した「デジタル田園都市構想」に関する詳細が徐々に明らかにされている。国の補助金も多額に準備されるとのことである。これらを活用した施策の検討が急がれる。
 - (カ) 市内中小企業は慢性的な人手不足である。今後、更に深刻化する労働力不足に備えて、地域企業の存続のためにも注力いただきたい。
 - (キ) 中心市街地の賑わい創出のため大切な事業であると認識しているが、居酒屋等の飲食店が多く、日中の活性化に繋がっていない。
 - (ク) イベントや商談会に出展することは重要である。「駅・高速道路SA・道の駅等」人が集まる場所への出展が可能になるような活動を検討していただきたい。
 - (ケ) 宇都宮商工会議所では、コロナ禍の状況を踏まえ緊急対策事業を行い会員企業等に喜ばれている。中期事業計画以外の事業について、特筆すべきことは実績として柔軟に加えても良いと思われる。必要に応じて機動的に見直しができるようにすることが重要だと思う。
- ➡ 委員からの意見を踏まえ、事業への反映を検討の上、実施することとした。

4 令和4年度

(1) 第1回

ア 令和4年度総務企画委員会スケジュールについて

事務局から令和4年度のスケジュールについて説明を行い、委員から特に意見はなかった。

イ 提言・要望事項に伴うアンケート調査報告書について

事務局から提言・要望事項に伴うアンケート調査報告書説明を行い、委員から特に意見はなかった。

ウ 宇都宮市への「令和5年度予算化及び措置要望」について

事務局から宇都宮市への「令和5年度予算化・措置要望」について説明を行った。委員からの主な意見は次のとおり。

- (ア) 現在、事業者が困っていることが、円安にともなう原材料高騰、及びゼロ融資の返済開始である。これらの課題に対する支援についても、要望をお願いしたい。
 - (イ) 事業承継について、ノウハウや時間が必要であり、金融機関や関係先との信頼関係の構築も必要である。小規模・零細企業も避けて通れないのが後継者問題である。
商工会議所は公的な立場であるので、そのような事業承継に関わる仕組みが作れたらよいのではないか。
 - (ウ) 次世代の経営者を育てるためにも、私立大学を含め、学部・学科の新設や環境整備についても、行政の支援をお願いしたいところである。
 - (エ) 少子化対策に係る提言も入れたほうがよいのではないか。
 - (オ) DXは、目的ではなく方法論である。DXの導入により、生産性の向上、品質の向上を目的にするものなので、それらの内容も丁寧に説明する文言を入れてよいと思われる。
 - (カ) インボイス制度対応への支援についても、ぜひ要望に入れていただきたい。
 - (キ) 栃木県は、再生エネルギーの経営資源が乏しい県である。他の再生エネルギーに関する予算が出たらよいと思う。また、個人が行う再生エネルギー使用に関する支援もあってよいと思う。
 - (ク) 2050年には現在の高校生や大学生が社会で活躍している時代である。そのため、学生向けのカーボンニュートラルに関する啓蒙活動を行政でも行ったらよいのではないか。
- ➡ 委員からの意見を踏まえ、令和5年度予算化・措置要望に反映できる内容について修正を行うこととした。

(2) 第2回

ア 宇都宮市への「令和5年度予算化及び措置要望」の手交について

事務局から、令和4年10月4日（火）に宇都宮市長及び宇都宮市議会議長に手交したことについて報告を行った。

イ 第6期中期事業計画（素案）について

事務局から説明を行い、今回の総務企画委員会や正副会頭会議の意見聴取を行った上で案を作成し、1月の総務企画委員会にて改めて協議を行うことを説明した。また、令和4年10月13日の正副会頭会議にて説明をしたこと、及び正副会頭から出た意見について報告を行った。

委員からの主な意見は次のとおり。

- (ア) 「I 計画策定の背景」
 - a 最後の行に書いてある第6期中期事業計画のスローガンについて、大きく記載してもよいのではないか。
 - b 「企業における自己変革への挑戦を支援」というスローガンは、支持したい。
- (イ) 「V 今後3年間の予測」
 - a 記載されている内容について、「カーボンニュートラル」や「人生100年時代」等に対応する新規事業を多く入れてほしい。

- b 来年にLRTが開業するが、LRT関連の事業が少ないと思われる。
 - (f) 第6期中期事業計画（素案）全体について
 - a かなり多くの事業を展開しており、商工会議所として必要な内容を全方位的に網羅していると思われる。行政と連携することが重要だと思う。
 - b 例えば現在の物価高騰や円安等、3年間の間に外部環境が急激に変化することも予想されるため、定期的なローリングをお願いしたい。
 - (g) 重点施策3重点事業1「中心商業地新規出店促進事業」
 - a 中心商業地新規出店促進事業の効果で、オリオン通り等の新規出店が増えているが、一方で治安が悪くなっているという声も聞いている。中心市街地の治安を守るための話し合いの場等を設けることも検討してほしい。
 - (h) 重点施策4重点事業4「大谷地区観光促進支援事業」
 - a 大谷地区の関係者から、ぜひ宇都宮商工会議所の対大谷地区に対する今後の事業の方向性を聞いてほしいと言われている。
 - 大谷地区の課題として、地域の間人関係があまり良くないことである。大谷地区にある施設同士が連携できるよう、宇都宮商工会議所で支援することはできるだろうか。
 - b 大谷地区だけではなく、もう少し広い地域でとらえたらいいのではないか。
 - ろまんちっく村や森林公園等と一体で考えられれば、自転車愛好家からの人気も高い地域なので、効果があるのではないか。
- ➡ 委員からの意見を踏まえ、反映できる内容について修正を行うこととした。

ウ 宇都宮商工会議所創立130周年記念事業（素案）について

事務局から説明を行い、今回の総務企画委員会や正副会頭会議の意見聴取を行った上で案を作成し、1月の総務企画委員会にて改めて協議を行うことを説明した。また、令和4年10月13日の正副会頭会議にて説明をしたこと、及び正副会頭から出た意見について報告を行った。

委員からの主な意見は次のとおり。

- (ア) 新型コロナウイルス感染症対策について
 - a 人が多く集まる企画が多いため、新型コロナウイルス感染症対策についても検討したうえで計画をしたほうが良いと思われる。
 - b 予算に抗原検査キットを計上する等、感染対策の経費も検討してほしい。
 - 経営者が集まる企画でクラスターが出てしまった場合、大変なこととなる。
 - 万一のことを考慮し、規模を縮小しても企画ができる内容を考えたほうがよいのではないか。バスツアーの実施についても、すこし心配である。
- (イ) プロジェクトチームについて
 - a 創立130周年記念事業のプロジェクトチームのメンバーは、どのような構成になっているのか。
 - ➡（事務局）手塚事務局長兼中小企業相談所長をリーダーとし、各部（総務部、経営支援部、地域振興部）から、次長（経営支援部は次長代理）を含めて2名ずつ職員を選出し、プロジェクトメンバーとした。
 - その他に、総務部からオブザーバーと進行管理を3名選出し、合計10名で検討を行った。

- (㉒) 事業No.1「創立130周年記念誌」
 - a 委託業者が既に決まっているのはなぜか。
 - ➡ (事務局) (有)随想舎は、当所会報作成の委託先であり、当所関連のデータを多数保有しているため、選定した。
- (㉓) 事業No.3「創立130周年記念会員大会」
 - a 抽選会よりも、著名な芸能人を呼ぶほうにお金をかけたほうが満足度も高いと思われる。
- (㉔) 事業No.7「創立130周年記念ロゴ&キャッチフレーズ」
 - a 特定の業者ではなく、広く一般市民に公募を行ったほうが良い効果があると思われる。
当社でも、子どもたちにキャッチフレーズを公募したところ、面白い提案が多数あがり大変良かった。
 - b 当社も昨年創立75周年を迎えロゴを作成したが、ネットで依頼すると案外安くできた。あまりお金をかけなくても、今は作成できる。
- (㉕) 全体について
 - a 会員企業が広く参加できる企画が良いと思われる。
また、多くの一般市民は宇都宮商工会議所のことを知らないため、一般市民に商工会議所の意義や事業内容を伝える企画もあったほうが良いと思う。
コロナ禍で会員数も増えているため、宇都宮商工会議所事業を広く知ってもらう機会としてもらえるとよい。
 - ➡ 委員からの意見を踏まえ、反映できる内容について修正を行うこととした。

Ⅱ 総務企画委員会活動報告書について

内容について、事務局から説明を行った。

第2回総務企画委員会の内容を追記した上で、若月委員長と報告書を作成することとなった。

Ⅲ 次期総務企画委員会における取り組みについて

当委員会の調査・研究事項については、「政策提言、要望に関すること」、「商工会議所の組織、事業運営、財政の健全化に関すること」、「その他、他委員会に属さないこと」となっており、宇都宮商工会議所の根幹に関わる事項である。

今期の活動は主に「第5期中期事業計画の検証」「宇都宮市への予算化措置要望」等に関して検討するとともに、令和4年度に策定する「第6期中期事業計画(素案)」「宇都宮商工会議所創立130周年記念事業計画(素案)」についても検討を行った。

今まさに我が国が、長引く停滞から変革への転換期を迎えようとする中で、地域の企業による自己変革への挑戦を後押しし、地域経済の好循環を生み出す魅力ある地域づくりがなされるよう、当委員会の取り組みが地域の成長につながることを期待します。